

使用製品

インプラント - 酸化ジルコニウム製アバットメント - クラウン - 酸化セラミックス - 保持形態のないアバットメント - SpeedCEM Plus

スピードセム Plus

化学重合ベースのデュアルキュア型セルフアドヒーシブタイプの接着性レジンセメントです。



オプトラスティック

接着性チップを持つ補助インスツルメント。修復物の保持に使用します。



Telio CS Inlay (日本未導入)

Temporary light-curing filling material for deep inlay preparations with parallel walls and sealing of implant screw access holes.



オプトラゲート

口唇や頬粘膜を確実に排除し、防湿を補助します。



イボクリーン

口腔内試適後、修復物の接着面を効果的にクリーニングするクリーニング材です。



リキッドストリップ

硬化時、酸素と触れることで形成されるコンポジットレジンの未重合層を抑制するためのグリセリンゲルです。



オプトラポル

コンポジットレジンを仕上げ研磨する、1ステップの研磨バーです。



Cervitec Plus (日本未導入)

The protective varnish containing chlorhexidine and thymol protects exposed root surfaces and controls bacteria.



フローチャート SpeedCEM Plus

インプラント - 酸化ジルコニウム製アバットメント - クラウン - 酸化セラミックス - 保持形態のないアバットメント - SpeedCEM Plus

1 装着前



アバットメントをスクリューで固定します。

2 修復物の試適



最終修復物を試適します。この時、修復物のシェード、適合、咬合状態を確認します。

3 アクセスホールの清掃と封鎖



The screw access opening is thoroughly rinsed with water spray and dried with oil-free air. Subsequently, the screw access opening is sealed with cotton wool or a foam pellet and **Telio CS Inlay** (日本未導入) . For all further treatment steps, relative isolation of the operating field, e.g. with **OptraGate**, is indispensable. A retraction cord may optionally be placed.

4 修復物の前処理



修復物の内面をブラスティングします (IPS e.max ジルキャドの場合:1気圧、酸化アルミナ100。材料メーカーの指示に従って行ってください)。

5 スピードセム Plusの塗布

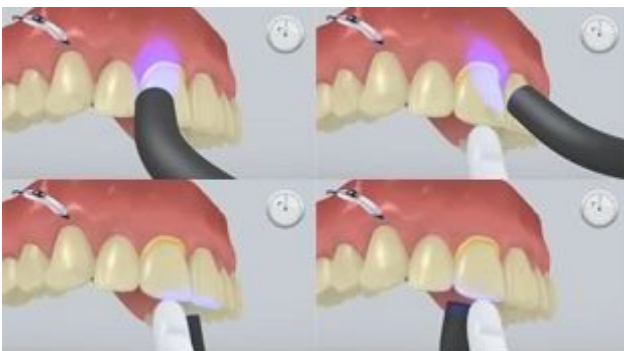


スピードセム Plusをオートミックシリンジから押し出し、必要量を修復物の接着面に直接塗布します。

6 修復物の装着と余剰セメントの除去



修復物を装着し、硬化まで軽い一定の圧力で圧接します。



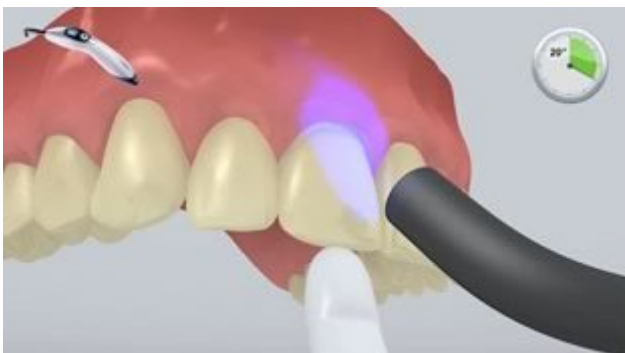
余剰セメントを1秒間、それぞれの面（近心舌側、遠心舌側、遠心頬側、近心頬側）に約0~10 mmの距離で光照射（約650 mW/cm²）します。



ゲル状に半硬化した余剰セメントはインプラント用スクレーパー等で簡単に除去できます。



他のコンポジットレジン同様に、スピードセム Plusは、酸素による未重合層が生じます。この問題を避けるため、修復物のマージン部分を余剰セメント除去後すぐに、グリセリンゲル/エアバリア材（リキッドストリップ）で覆います。



その後、マージンに沿って、多方向から20秒ずつ（約1,100 mW/cm²）光照射します。オペーク色、つまり光が透過しにくい材料の場合は、化学重合による硬化をお勧めします。



リキッドストリップを水洗し、オプトラゲートや防湿用パッド、圧排糸を除去します。

7 仕上げ



隣接面は、フィニッシャーやポリッシャーで仕上げ研磨を行います。咬頭嵌合位および機能運動時の咬合関係を確認し、必要があれば調整します。修復物マージンを研磨バーもしくはディスクで仕上げ研磨します。(オプトラポル)

8 定期検診



A thin layer of **Cervitec Plus** (日本未導入) is applied where it is needed with the help of a Vivadent applicator or a brush. The varnish sets by itself or with the application of a stream of air.